

【指定区分】世羅町指定重要文化財 【種別】建造物

【指定・登録名称】^{たいへいじ におうもん} 太平寺仁王門

【指定年月日】昭和45年(1970)4月1日 【員数】1棟

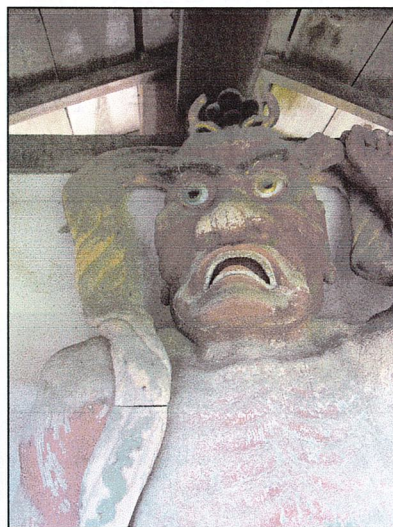
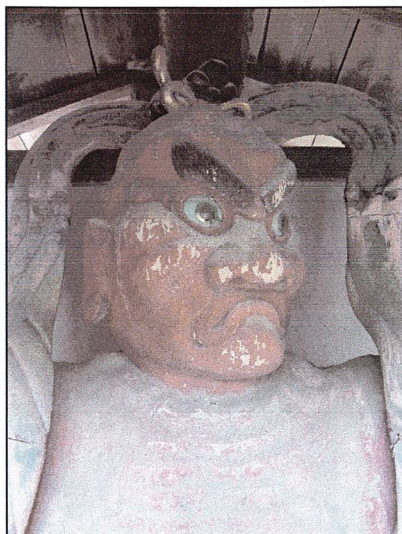
【時代】江戸時代 【所在地】世羅町大字小国(太平寺)



興国山太平寺は、「備後禅三刹^{さんせつ}」の一つと言われたほどの広大な寺域をもつ古刹であったという。開山は応安5年(1372)、真言宗として大坪(現在地より1km東方)にあったが、密伝真薄大和尚^{しんぱく}の時、臨済宗に改宗し、明応10年(1501)、檀越芸州甲立城主宍戸河内守成頼^{だんおつ ししど}によって現在地に建立した。元来、禅宗では、「仁王」は祀らないのが慣例であるが、真言宗時代の名残りを示している。仁王門をくぐって行くとその奥に太平寺の山門がある。

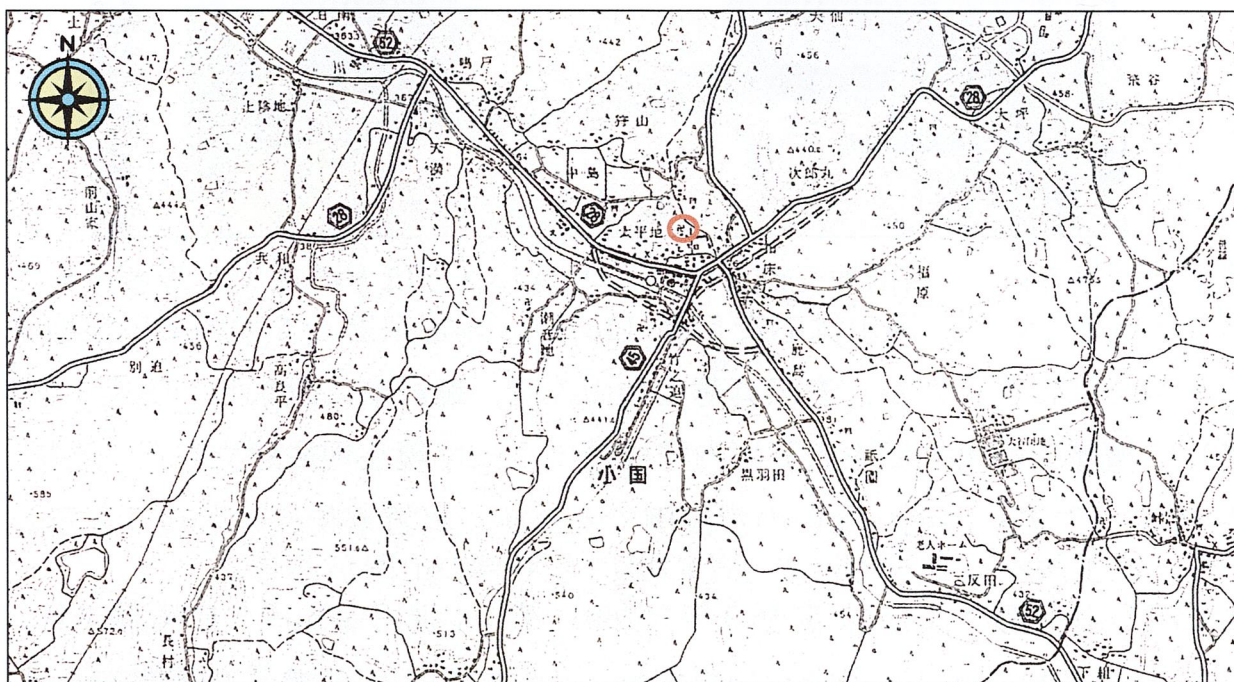
仁王門の由来記によると、宝暦9年(1759)、第14世円翁和尚の時再建され、天保2年(1831)、第18世贖翁和尚^{かいおう}の時、小国村の大工栗橋甚右衛門安逸等によって修造されている。門の左右の仁王像は、文化10年(1813)、17世無禅和尚が、小国村の工匠薮花阿部治水信によって、山門守護二尊金剛二王神を彫刻して安置したという。

開口5.2m、奥行2.8m。^{かわらぶき きりづまづくり しきやくもん}瓦葺・切妻造・四脚門で江戸中期の建築である。



太平寺仁王門の仁王像（左：吽形像^{うんぎょう} 右：阿形像^{あぎょう}）※未指定

同寺には、「太平寺仏殿（本堂）」，「木造釈迦如来坐像」がある。
（建造物番号 8 指定登録整理番号 町 35 及び彫刻番号 35 指定登録整理番号 町 111 参照）



【アクセス】

J R 芸備線甲立駅から車で東へ約 30 分。世羅町役場せらにし支所から北西へ約 5 分。
最寄りの駐車場：せらにし学校給食センターの駐車場

【見学・拝観の有無】

仁王門については、とくに制限はない。
問い合わせ先 世羅町教育委員会社会教育課 0847-22-4411